

協同組合運動の歴史とこれからの展望

「市民社会」は市場経済の出現とともに誕生しました。「市民社会」とはブルジョワジーの欲求が渦巻く自由放任の交換体系であり、階級的格差の増大を容認する空間だったので。労働者階級による貧困と格差への異議申し立てを受け、その調整役として20世紀に登場したのが福祉国家ですが、その一方、利潤の追求が絶対命題である資本の運動原理とは異なった労働者の連帯による交換体系の障壁を「市民社会」のなかで創り出そうとする試みもまた登場します。そう、協同組合です。

本講座では協同組合の「これまで」について学ぶとともに、新自由主義が国家権力を通して実現されている現在の状況を見据えながら、社会的連帯経済の試みや生協運動のことなどを学び、国際主義的な連帯が始まりつつある協同組合の「これから」について考えていく予定です。協同組合の関係者だけでなく、資本主義に疑問を持つ学生や労働者を歓迎します。



賀川豊彦

日本の協同組合の生みの親、戦前の大阪労働学校の創設メンバーでもあります。

4～6月 協同組合の基礎

大阪労働学校よりオンラインによる双方向型の講座

時間 14:00～15:30

初回 4/5 (日)

第2回 5/3 (日)

第3回 6/7 (日)

課外講座

賀川豊彦記念館を訪問

※HP やチラシにて告知します。

講師予定者

下山 保

(パルシステム生協初代理事長)

若森 資朗

(元パルシステム生協理事長)

丸山 茂樹

(参加型システム研究所)

白井 和宏

(市民セクター政策機構)

その他、大阪労働学校の講師陣

7月以降の日程と講師は決まり次第 HP や新しい案内チラシにて告知します。